



千八百七十八年八月米國新約克府刊行「バンクカルスマガゼイン」抄譯

銀貨運轉實況  
日耳曼國廢銀ノ一  
亞細亞洲ニ於テ銀ヲ吸入スル一  
歐洲一般ノ貨幣概況







大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

鬼頭悌二郎譯

イン抄譯

銀貨運轉実况

夫レ昨年間ニアリテ金銀二者相互ニ割合(則テ所謂銀貨ヲ以テ金貨ト交換セントスルニ際シ銀價ノ上ニ及ボセシ變動如何ヲ讀者ニ示スハ実ニ有益緊要ノ一ナルベケレバ吾曹ハ今ニ其大要ヲ左ニ列載セン

○日耳曼國廢銀ノ一

千八百七十七年十二月三十一日ニ至ルマデ日耳曼政府ニテ現ニ販賣セシ銀額(販賣用ノ為メニ預備セシ銀塊ノ分ハ此内ニ算入セス)ハ即チ下文ニ記載マルガ如シ  
但シ量目志「キ」グラムハ英量貳「ポ」ンドニ〇五「ア」ボエジエボ



イヌニ均シ  
毛餘ニ当ル  
即チ是キログラムハ我ニ百六十八匁一分一厘四

年号

キログラム

從千八百七十三年

五十六万九千

至千八百七十五年

千八百七十六年

五十九万

千八百七十七年

百六十五万七千

總計

貳百八十一万

此貳百八拾万キログラムツ銀額ヲ販賣セシ價格ハ日耳曼貨  
四億七千三百万千貳百拾九「マルク」ニシテ即チ此洋銀壹億三百  
貳拾五万五千五百五十五「ドル」ナルナリ但シ四「マルク」ヲ以テ是「ドル」  
ラニ算計ス

此貳百八拾万「キログラム」ノ銀額ヲ生出スル為メ日耳曼政府

ニテ溶解セシ貨幣ノ價格ハ四億七千六百五拾万七千七百六  
拾「マルク」ニシテ即チ之レヲ洋銀ニ直シテ壹億七千九百拾貳万七  
千九百四拾「ドル」ナルナリ

是ニ依テ日耳曼國ノ損失ハ六千三百四拾万九千五百四拾「マルク」

ニシテ即チ此洋銀壹千五百八拾五万貳千三百八拾五「ドル」

ナルナリ蓋シ此損失ヲ来セシ所以ハ同政府ニテ諸貨幣受取ノ

際空價ヲ以テ旧補助貨幣ヲ引取リシト其<sup>且ツ</sup>他ノ諸貨幣ヲ引取

ルニ<sup>モ</sup>摩耗ノ為メ量目減少アルモ敢テ減價ヲモナスナク<sup>摩耗</sup>ノ

為メ量目ノ減少セシ「マルク」三分ト見積ルナリ却テ金壹「マルク」付銀

拾五半ナル旧價ヲ以テセシニ由ルナリ然ルニ此金壹「マルク」付銀

拾五半ノ割合ハ英京倫敦ニ於テ銀壹「オン」ニ付キ六拾「オン」

ハ分ノ六ノ相場ニ均シキモノナレバ日耳曼政府ニ於テ販賣セ

シ銀價ハ平均賣「オン」ニ付キ五十四「オン」ヨリ五十五「オン」



マテノ相場ニ止レリ

千八百七十七年ノ終リニ際シ日耳曼政府ノ廟算ニ依レバ當時  
猶ホ販賣スベキ銀貨幣ノ残額ハ旧價ニテ四億九千万マルク  
リ若シ従前販賣セシ如ク同様ノ損失ヲ以テ之レヲ賣却スル  
ハ大約三億九千五万七千六百五拾兆マルク即チ洋銀九千七百  
五拾一万四千四百拾三万ドルヲ得ルニ至ルベシト  
去ル二月日耳曼國ハムボルグ港刊行ノ一新紙中ニ最モ名聞ノ  
高キ日耳曼ノ博學者「トビイ」氏ノ豫算ヲ載録セリ云ク千  
八百七十七年十二月一日ニ至ルマデ二百八拾兆万マルク  
ノ銀額ヲ販賣セシ後チ尚ホ販賣スベキ残銀貳百五拾万マルク  
ラムノ多キアリト

若シ市價ノ變動ナク幸ヒニ銀價ノ高低ヲ起スナクシテ此残銀  
貳百五拾万マルクラムヲ販賣スルハ大約三億七千五百八拾

中々

三万貳千貳拾ニテ即チ洋銀九千三百九拾五万八千五ドル  
此ノ實額ヲ得ルニ至ルベシ

是ニ由テ之レヲ觀レバ千八百七十七年十二月三十一日販賣ス  
スベキ残銀在高二付キ「トビイ」氏ノ豫算セシ所ハ日耳曼  
政府ノ概算セシモノト大同小異ナルハ看客ノ視易キ所ナリ  
日耳曼政府ニ於テ銀ヲ販賣スルノ地ハ殆ド英京倫敦ノ市場ニ  
限ルモノナリ是ヲ以テ千八百七十七年間ニ倫敦市場ニ於テ日  
耳曼ノ販賣セシ銀額ハ大約六千壹百万ドルヲルノ巨額ニ及ホ  
ヒ又同年間一月ヨリ大不列顛國ニ輸入セシ銀額ハ六千八百七  
拾三万七千七百九拾ドルヲルノ多キニ達セリ  
左ニ記載スルモノハ千八百七十七年十二月三十一日以来日耳  
曼國ヨリ大不列顛國ニ毎月輸送セシ銀額ヲ示スモノナリ  
千八百七十八年



一月	百七十一万三千四百七十五「ドル」
二月	六百二十二万八千九百七十九「ドル」
三月	五百二十五万九千四百五十「ドル」
四月	三百八十八万三千四百「ドル」
五月	拾七万三千九百五十「ドル」

千八百七十七年同「ア」リテ、日耳曼国ヨリ英国へ輸送セシ銀額、毎月平均五百七拾貳万八千四百九「ドル」ノ割合ナリシガ故ニ千八百七十八年一月間ノ販賣高減少セシ「ト」願フル甚シキモノトス

畢竟斯ノ如ク甚タシキ減少ヲナセシ所以ノモノハ他ナシ當時露西亜政府ニ於テ軍用ニ供スルガ為メ銀貨ヲ鑄造セント企テシガ故ニ之レ「ス」ル政府へ販賣セシニ由ルヤ疑ヒ「テ」容レス美

当時露政府「現」ニ日耳曼政府ト條約ヲ締結シテ以テ貳千万「ド

中

年	日	マルク
千八百七十七年	九月三十日	九億六百八十五万九千九百
千八百七十八年	二月廿八日	九億六千七百四十一万九千二百五十九
千八百七十八年	三月三十一日	九億九千八百七十二万七千四百九十九

ルラ「ル」文ケ「ル」銀、日耳曼政府ヨリ買入レン「ト」ヨ約セシ「ト」ノ風説英京倫敦、佛京セ「テ」ノ兩府ニ行ハレ「ル」人々此説ヲ信セリ

目今ヨリ之レヲ觀レバ若シ當時ニアリテ斯ル條約ヲ結フ「ノ」企アリシ「ト」モ到底此策ノ行ハレザリレモ、タルヤ明カナリ然レ此改創ノ理財新紙「オ」ハ皆云ク当時巨額ノ銀ヲ日耳曼ヨリ露国ニ販賣セリ「ト」又云ク露国ノ造幣寮ニ於テハ土耳其出陣ノ軍兵使用ノ為メニ夥多ノ銀貨幣ヲ鑄造セシ「ト」

千八百七十七年九月三十日以來日耳曼政府ニテ買入レタル銀貨ノ空價ハ公布ニ依レバ即チ左ノ如シ

大歳



千八百七十八年四月三十日 十億千二百九十九万七千六百三十七  
 千八百七十七年九月三十日 以来日耳曼造幣寮ニテ鑄造セシ補  
 助銀貨幣ノ空價ハ公布ニ依レバ即チ左ノ如シ

年月日  
 千八百七十七年九月三十日  
 千八百七十八年三月九日  
 千八百七十八年三月十六日  
 千八百七十八年四月二十日

四億千四百三十三万五千三百  
 四億二千四百八十八万四千四百七十九  
 四億二千五百三万八千五百八十九  
 四億二千五百五十一万四千七百九十四  
 日耳曼造幣寮ニ於テ鑄造セシ右ノ新造補助銀貨ハ大約志割志  
 分程モ輕量ナリ然ルニ旧補助銀貨ハ復令ヒ摩耗ノ為メニ其量  
 日々減セシト雖モ其減量ハ唯僅カニ三分内外ニ止マレリ故ニ  
 旧補助銀貨九十二ニシテガルク中蓄蓄ノ銀ヲ以テ新造補助銀貨志  
 百万マルクニシテ銀量ニ適應スルニ足ルモノトス

ヤニ

千八百七十七年十一月刊行ノ一新聞中ニ「ソートビイヤ氏ノ豫  
 算ヲ載セテ云ク若シ日耳曼政府ガ千八百七十七年九月三十日  
 以前ノ三ヶ月間ニ於ケル割合ヲ以テ引續キ其銀ヲ販賣セシナラ  
 ンニハ蓋シ千八百七十八年間ニ悉皆賣却済ミトナルベシ若シ  
 多少ノ猶豫アルトモ到底千八百七十九年三月中ニハ一片ノ残  
 銀ヲモ見ザルニ至ルベシト

「ソートビイヤ氏ノ豫算スル所夫レ斯ノ如シト雖モ若シ吾曹ハ  
 「ソートビイヤ氏ノ如ク千八百七十七年九月三十日以前ノ三ヶ  
 月間ニ於ケル販賣高ニ於ラスシテ千八百七十七年ナル全一ヶ  
 年間ノ販賣高志百六拾五万志千マルクニ就テ將來ノ概算  
 チナスハ千八百七十七年十二月三十一日ノ残銀在高ナル貳  
 百五拾万「マルクニシテ「マルクヲ販賣シ尽スニハ拾ハヶ月間ノ久シキニ  
 涉ルヘシトス

大蔵省



若シ又吾曹ハ千八百七十八年一月一日以来倫敦市場ニ於テ日  
耳曼銀貨ノ販賣高ニ依テ考察スルキハ此我銀貳百五拾万キロ  
グラムヲ販賣シ尽スニハ尚ホ一層長久ノ時日ヲ要スベシトス  
然レモ又千八百七十八年一月一日以来倫敦市場ニ於テ販賣セ  
レ銀ノ外ニ露西亞ニ賣渡セシ銀額若干アレバ倫敦市場ニ販賣  
セシモノト之レヲ併算セザルベカラス  
自今此後日耳曼ハ如何ナル割合ヲ以テ其銀ヲ販賣スルカハ日  
耳曼國政府ノ廟議ニ共カラザル者ニ取リテハ實ニ迷津望洋ノ  
歎ヲ免レスシテ唯漸ク臆測スルニ過キザル而已  
固ヨリ其割合ノ如キハ種々ノ事変起ルニ随ヒ月々高低ヲ生セ  
ザルベカラザルノミナラス尚ホ且ツ銀價昇降ノ有無ニ依リ時  
々廟算ノ変更アルニ随クテ變動ナカルベカラス  
日耳曼政府ノ其販賣セシ銀ノ代リニ少ナクトモ若干額ノ金ヲ

ヤセ

買入レザルミナラザルガ故ニ世界ノ全市場ヲシテ速ニ其金ヲ  
投出セシメントスニハ如何セバ能ク事ヲ舉行シ得ルカヲ熟  
考セズンバアルベカラズ  
千八百七十七年間日耳曼ヨリ倫敦市場へ賣却セシ銀額ハ六十  
八百七十三万七千七百九十ドルナリシガ又同市場ニ於テ  
同國ノ買入レシ金ハ四千七百七十一万七千四百二十九ドルナ  
リ及ビ  
日耳曼ノ商業衰頹ノ甚シキ業已ニ久シ幾今ヤ為メニ勤モスレ  
バ政事上ノ大動乱ヲ醸シ社會ノ動搖ヲ生セントスルノ姿ヲ表  
スルニ至レリ後來万一日耳曼ニ於テ人民一名ニ付補助銀貨拾  
マルクノ割合ヲ増加スルニ至ラバ其販賣セント欲スル銀額ハ  
大ニ減少セルナルベシ  
曾テ千八百七十六年ノ歳暮ニ臨ミ日耳曼國ノ行政院ヨリ同國

大  
歳  
省



ノ議院ハ所見ニ呈セシテアリテ以テ一名ニ付テノ補助貨ノ割  
合ヲ増加シテ拾五マルクトナサンコトヲ述ベシガ高ホ深ク協議  
ヲ遂ケ且ツ既ニ制定セシ拾五マルク貨ニ就テ暫ラク適否如何ノ  
實際ヲ視察シテ然ル後ニ何分ノ所置ヲ施サンコトナレリ  
当新約克府ノ一商家ニシテ日耳曼國ニ數名ノ通信者ヲ有スル  
者ヨリ千八百七十八年四月六日付ノ一昏ヲ吾社ニ寄送セリ其  
文即チ左ノ如シ

余銀貨流通ノ現況ニ付テ日耳曼國諸地方ハ尋問ヲ為セシガ  
何レモ頗ブル不満足ノ回答ニシテ且ツ其答フル所區々ナリ  
尤モ左ノ一事ニ付テハ何レモ同説ナリ即チ目今寧ロ小貨幣  
不足ノ姿ナリ之レニ依テ此上「ターレ」貨不足スルニ至ラバ  
高ホ其勢一層烈シカラザルベカラザルコト是レナリ  
倫敦ニヨリ「ト」新聞ノ通信者ニシテ佛京巴里ニ在ル者ノ寄

昏ヲ千八百七十八年四月二十日刊行ノ「エ」ノミス「ト」新聞中ニ  
登録セリ云ク

凡ソ銀ノ賣買ニ從事スル黨輩ハ皆本年ノ末ニ至ラザル前ニ  
銀價ノ變動ヲ生シ多少騰貴アルベキヲ屈指待チ居ルノ姿アリ  
ト

又云ク日耳曼政府ニテハ是迄小貨幣鑄造高ノ制限アリテ一  
人ニ付キ拾五マルク「ト」定メ置キシガ其割合ノ不足ナルヲ  
視察シ更ニ其制限高ヲ増シテ一人ニ付キ拾五マルク「ト」  
定メシトノ議ヲ起セリト云フ

是ニ由ラ之レヲ觀レバ日耳曼政府ニテ現行ノ割合ナル補助銀  
貨拾五マルクノ制ハ仮令ヒ一人ニ付キ拾五マルクノ多キニハ上  
ラザルニ幾分カ増加ノ模様アルニ似タリ  
是ニ由テ仮令ヒ其増加ノ割合ハ幾許ニモセヨ免ニ角幾分ニテ



増加アル以上ハ其増加ノ高ニ應レテ日耳曼ノ販賣セントス  
 ル銀ノ額ヲ減少スベキナリ  
 一トトビイヤ氏ノ報告ニ依レバ千八百七十二年ヨリ千八百七  
 十五年ニ至ルマデ日耳曼國ノ諸礦脈精煉所ヨリ生産セシ銀  
 額ハ貳千七百五拾万ドルニシテ爾來其額陸続増加ヲ致ス  
 ト  
 曾テ英國ニ於テ鉛塊ヨリ銀ヲ撰出スルノ業改良セシガ為メニ  
 其精煉所ニ於テ生産スル銀額著ルレク増加セシテアリシガ今  
 マ日耳曼國ニ於テモ斯ノ如ク其増加アルハ均シク是レ術業ノ  
 改良セシニ依ルヤ明ラカナリ  
 サレバ日耳曼國産出ノ銀ヲ以テ同國ノ技術并ニ延板用ノ需求  
 ニ應スルヲ幾許巨額ニ至ルトモ既ニ同政府ニテ買上ケタル銀  
 貨幣ノ内多ク一海外ニ販賣セラル、ニ至ラン

九九

蓋シ全局ニ於テ之レヲ視ルニ日耳曼國ニ於テ千八百七十七年  
 十二月三十一日算 販賣スルノ残銀在高ハ曾テ英國銀貨取調  
 委員ガ千八百七十六年六月ヲ以テ残銀在高ノ豫算ヲナセシ  
 丈ノ巨額ナリ尚ホ詞ヲ変テ云ハバ日耳曼國ノ旧銀貨ハ二ヶ  
 年以前ノ算額ヲ超越スルヲ甚タ多クナリヲ証明セリ  
 千七百五十年ヨリ千七百七十一年ニ至ルマデ日耳曼國ノ造幣  
 寮ニ於テ鑄造セシ旧銀貨幣ノ全額ハ即チ次ノ如シ  
 但シ尙マルクヲ以テ大約貳拾五セントトナス  
 一ドル貨 拾四億八千貳百万マルク  
 一ゴールデン即チフロリン貨 貳億四百万マルク  
 一ハウス、タウン貨 貳千四百万マルク  
 一旧種銀貨幣 八千貳百万マルク  
 總計 拾七億九千貳百万マルク



右記載ノ「ヨ」ル「デ」ン貨即チ「ロ」リ「ン」貨ハ嚮キニ初メテ日耳曼  
 國ノ採用スル所トナリ其償却ノ年限既ニ二ヶ年以前餘ニ終リ  
 シニ發行高ノ内僅カニ六割ハ分丈引換ノ為メ差出セシ而已茲  
 ニ於テ当路ノ官吏ハ「タ」レ「ル」貨ハ使用ノ年月モ一層長久ナル  
 ヲ以テ随ツテ其高ノ減少セシ「ト」頗ブル巨大ナルベキ「ト」信用  
 スルニ至レリ二三ノ豫算ニ依レバ其減額ヲ六割ノ多キニ見積  
 リシモノナキニアラスト「虫」氏目今日耳曼政府ノ計算スル所ヲ  
 シテ誤謬ナカラシメバ「タ」レ「ル」貨ノ減少モ亦「ロ」リ「ン」貨ノ減  
 額ト大同小異ナル而已

「タ」レ「ル」貨發行高ノ内千八百七十八年三月末マデニ引上テ  
 シ高ハ七億八千八百二十万二千八百八十「マルク」ノ多キニ及ルベ  
 リ  
 日耳曼國ノ「オ」ル「重」モニ政府ノ為メニ金貨ヲ鑄造シ其額大約

六分ノ五ナリ「ト」虫氏左ニ記載スル数月間鑄造ノ金額計ニハ  
 亦人民ノ為メニ鑄造シ「シ」ニ「タ」モ合算スルナリ

千八百七十四年十二月三十一日	拾億九百三十四万四千四百「マルク」
千八百七十五年六月三十日	拾億四千九百二十七万三千三百「マルク」
千八百七十五年十二月三十一日	拾億七千五百七十六万九千「マルク」
千八百七十六年三月三十一日	拾億七千九百四十六万七千八百「マルク」
千八百七十六年六月三十日	拾億七千七百三十一万七千「マルク」
千八百七十六年九月三十日	拾億貳千貳百拾万九千八百「マルク」
千八百七十六年十二月三十一日	拾億三千五百拾八万九千五百「マルク」
千八百七十七年三月三十一日	拾億三千五百二十三万六千「マルク」
千八百七十七年六月三十日	拾億七千二十七万二千五百「マルク」
千八百七十七年九月三十日	拾億二千三百三十三万三千「マルク」
千八百七十八年三月十六日	拾億七千三百八十八万八千四百五十五「マルク」



千八百七十八年四月二十日

拾叢億八千四百一十一万三千三百八十九圓

○五細亞洲ニ於テ銀ヲ吸入スル

曾テ千八百七十六年并ニ同年以前兩三ケ年間ニアリテ確説先  
言百出レ以テ亞細亞洲ニ於テ銀ヲ需求スルハ後來決シテ再ヒ  
旧来ノ勢ニ復シ巨額ニ至ラザルベシトセシガ豈ニ計ラシキハ  
百七十七年間ニ東洋(印度、日本、支那、及ヒ、ストレイツト、新埠、  
諸地ヲ云フ)ニ輸送セシ銀額ハ尙億五百万圓ラシク多キニ  
及ホセリ然ルニ千八百七十七年以前最モ輸送高ノ巨大ニ至リ  
シハ千八百五十七年ニシテ其高實ニ八千三百六十五万圓ラ  
ルナリシ

今千八百七十七年ニ東洋ニ輸送セル銀額ヲ細分スレバソノサ  
ムプトヨリ輸出セシモノ殆ド八千万圓ラシク(此英貨尙千六  
百九十七万八千四百一十一ポンド)カンフランシスヨリ輸出セシ

高尙千九百万圓ラシクモルセイヨリ輸出セシモノ四百萬圓ラ

シ、ガサニヨリ輸出セシモノ貳百万圓ラシクナリキ

儲又ソノサムプトヨリ輸出セシ銀額尙千六百九十七万八百

四十一ポンドノ内尙千四百九十二万三千五百六十六ポンド即チ此

洋銀七千貳百三拾七万七千三百七十九圓ラシク(但シ英貨尙「ポンド」

ニ付キ四「ドル」ハ十五セントノ相場ヲ以テ算ス)ハ獨リ印度

國ニ赴キタル分而已然ルニ印度ニ於テ同年間ル他亞細亞諸國

トノ輸出入差引ノ上實ニ印度ニ止マリシ銀ハ「サムプト」

ヨリ輸送ノ七千貳百三拾七万七千三百七十九圓ヨリ一層巨

多ナルニ至レリ

千八百六十六年以前四ケ年間ニ於テハ亞米利加南北戦争ノ為

メニ印度國ヨリ綿ヲ輸出セシ巨額ニ及ヒ随ツテ價格モ頗ル

貴カリシヲ以テ輸出入差引ノ上實ニ印度ニ残りシ銀額ハ貳億



七千ドルラルノ巨額ニ及セリ即ち毎年平均六千七百五十万  
ドルラツ、ノ輸入額ナリ  
畢竟亞細亞へ流出ノ銀額斯ノ如ク夫レ巨額ナル所以ノモノハ  
他ナシ千八百七十七年間合衆国并ニ改洲ノ諸造幣寮ニ於テ銀  
貨ヲ捨テ獨リ金本位ヲ採用セントノ議決アルヨリシテ日耳曼  
廢銀ノ蹙進歩セシニ因レリ是レ其一大原因ナリトス  
千八百七十七年間ニアリテ日耳曼國ヨリ倫敦市場へ到来セシ  
銀額ハ六千八百七十三万七千七百九十ドルラルニ及ビ此銀額  
皆ナ倫敦ヲ去ツテ亞細亞洲ニ赴ケリ其故ハ他ナシ亞細亞ヲ除  
クノ外ニハ之レヲ販賣スルノ市場毫モナケレバナリ  
若シ日耳曼政府ガ此銀額ニ止マラスシテ之レヨリ十倍巨額ノ  
銀ヲ倫敦ニ輸送シタラニハ倫敦モ亦十倍巨額ノ銀ヲ亞細亞  
洲へ輸送セシルベシ

是ニ由テ之レ觀レバ銀流入ノ方向ハ一定不動ニシテ東洋ニ  
三ノ市場ニ限ルモノナリ其價格ノ如キハ亦市場ノ模様ト流  
入ノ多寡ニ由リテ時々變動ヲ生スルモノナレバ一定不動ノモ  
ノニアラザルヤ知ルベシ  
抑モ銀流入ノ市場ハ唯一方ニ限ルモノナルヲ以テ其何レタル  
ヤヲ前見豫知スルハ決シテ難キニアラス且ツ亞細亞洲ニ於  
テ銀ヲ吸入スル力量ハ實ニ洪大無限ノモノニシテ幾許額ニテ  
モ輸送セシ分ヲ吸入スルノカアルナリ  
仮令ヒ亞細亞ガ斯ノ如キ吸入ノ力量アルトモ是レ唯亞細亞  
ノ銀價多少騰貴ヲ致スノ一点ナル而已  
或ル英國ノ博識者ハ千八百七十七年間ニ印度へ輸送セシ銀額  
巨大ニ至リタルハ其原因多シトモ印度國飢饉ノ為メ英國ヨ  
リ數回貸付金ヲナセシヲ以テ其一トナセリ



蓋し斯ノ貸付金ノ内ハ唯一時取替ノ類アリテ本年拂渡済ミ  
トナリケルモノモアレバ本年輸出ノ銀額ヲ減少セザルベカラ  
ス  
印度ニ於テ飢饉ノ災害ニ罹リタルヨリシテ生スル直接ノ影響  
ハ必ラズ印度ガ銀ヲ需求シ之レヲ保存スルノ勢カヲ減少スル  
ニ至ラザルベカラス

倫敦外ハムニ新聞ノ通信者ニシテマドラス英領東地印ニ在ル者  
ヨリ千八百七十七年七月四日付ノ來信ニ云ク  
現ニ当地人民ノ飢饉ニ迫ルヤ甚シ且既ニ食物ノ代料ニ供セ  
ンガ為ノ所持セル金銀製ノ宝玉類ヲ賣却セシ人民數百千ニ  
滿ツト

又云ク「ボムベ」造幣寮長近頃此趣旨ニ付テ至緊至要ノ冊子  
ヲ出版セリ其冊子ヲ閱スルニ人民私有ノ裝飾類ヲ溶解シテ

London

地金トナシ之ヲ荷積シテ以テ五月造幣寮ニ到來セシ銀額ハ  
大約八万ポンドニシテ六月ニ及ンダハ其高一層巨大ニ至レ  
リト  
千八百七十八年四月二十日刊行ノ倫敦「エコノミスト」新聞ニ云  
ク「ボンベ」造幣寮ノ銀貨鑄造高ハ千八百七十七年ノ全一ケ年  
中ニ志百方以上ノ増加ヲ致セリ而シテ此志百方以上ノ増額ハ  
皆印度地方飢饉ノ為ニ難渋人ヨリ輸送セシ裝飾類ヲ以テ鑄  
造セシモノナリト  
飢饉ノ為メニ痛ク貧窶ニ迫リ斯ノ如ク所持ノ裝飾類ヲ造幣寮  
ニ引渡スニ至リ貧困ノ影響實ニ甚シ尚ホ此影響タル裝飾類ノ新  
規購買上ニ波及スル一層甚シクシテ為メニ之レガ費途ヲ減  
スル一層巨大ナルニ至ラン  
此ノ何事何物ニ限ラズ某ノ事アリテ為メニ印度ノ人民貧困飢

大歳



紙ニ迫マシテハ其正銀二者ヲ購求保存スル勢カヲ衰感セシ  
 マガルベカラザルハ固ヨリ論ヲ疑タス  
 千八百七十七年ニ比シテ千八百七十八年間ニ於テ印度ガ銀ヲ  
 需求スル高ノ減少セシ所以ニ付キ其他英人ノ兵解スル所ニ依  
 レバ右ノ畢竟印度ノ諸銀行ニ於テ割引ノ割合頗ブル下落セシ  
 ニ因ルト

六月六日刊行ノ倫敦「エコノミスト」新聞ニ云ク

銀市場ハ又大ニ衰凋ノ色ヲ示セリ  
 畢竟此不幸ナル結果ヲ來セシハ印度ニ於テ通貨ノ低價ナル  
 一等其原因ハ一ニ居ルヤ固ヨリ論ヲ疑タス目今柔佛ノ銀  
 行ノ如キハ其最下ノ割引相場ヲ四割ニ低減セリ  
 然ルニ是迄西三ヶ月前ニ於テハ其相場九割ナリト  
 千八百七十七年間ノ内或ル月ニ當リテハ印度銀行ノ割引相場

毫割志分ノ高貴ニ及母ビシトアリタリ

印度ニ於テ銀ヲ需求スル割合ハ平素變動ヲ生シ一時巨額ノ輸  
 入アレバ其後ハ必ラス小額ノ輸入アルナリ然リト雖其流出  
 ノ道ハ常ニ一定シテ動カス若シ他日印度國ニ於テ鑛山ノ發見  
 アリ以テ際限ナク之レヲ需求スルニ應スル丈ケノ產出アルニ  
 至ラザル以上ハ常ニ流出ノ止ムナシ  
 千八百七十八年一月二月三月四月并ニ五月間ニアリテ英國ヨ  
 リ印度英ニ文那(香港)ヲモ合セテ(向ケ)輸送セシ銀額ト千八百  
 七十七年同月間輸送ノ分トヲ比較スレバ即チ左ノ如シ  
 一月間輸送ノ分 同

千八百七十七年	千八百七十八年
印度ハ 五百八十八万二千七百五十ドルラシ	英百五十一万ドルラシ
文那ハ 三十三万五千七百七十五ドルラシ	英千七十四万五千五百五十九ドルラシ



總計	千八百七十七年	千八百七十八年
二月輸送ノ分	同	同
印度ハ	三百壹万九千九百ドル	六百九拾五万二千五百五十ドル
支那ハ	壹百三十二万七千七百五十ドル	壹百二十万一千六百三十九ドル
總計	四百三十九万七千七百五十ドル	八百十五万一千八百八十九ドル
三月輸送ノ分	同	同
印度ハ	千八百七十七年	千八百七十八年
支那ハ	五百六十九万貳千三百三十九ドル	貳百貳十八万壹千ドル
總計	七十一万貳千八百五十ドル	五十七万八千六百七十九ドル
四月輸送ノ分	同	同
總計	六百四十九万九千八百八十九ドル	貳百八十九万九千六百七十九ドル
印度ハ	五百三十万ドル	三十万三千七百七十九ドル
支那ハ	九十三万壹千五百五十九ドル	六十七万七千九百三十九ドル
總計	六百二十三万壹千五百五十九ドル	九十八万壹千三百九十九ドル
五月輸送ノ分	同	同
印度ハ	千八百七十七年	千八百七十八年
支那ハ	六百四十七万二千二百九十ドル	壹百八十九万七千貳百ドル
總計	七百四十九万七千七百九十ドル	三百壹万四千六百九十ドル
千八百七十八年一月ヨリ五月ニ至ルマデ	千八百七十七年	千八百七十八年
ヨリ東洋諸国ハ輸送セシ銀ト昨七十七年同月間輸送ノ分ト	千八百七十七年	千八百七十八年
比較スレバ即チ次ノ如シ	千八百七十七年	千八百七十八年
香港ハ	千八百七十七年	千八百七十八年

總計	千八百七十七年	千八百七十八年
二月輸送ノ分	同	同
印度ハ	三百壹万九千九百ドル	六百九拾五万二千五百五十ドル
支那ハ	壹百三十二万七千七百五十ドル	壹百二十万一千六百三十九ドル
總計	四百三十九万七千七百五十ドル	八百十五万一千八百八十九ドル
三月輸送ノ分	同	同
印度ハ	千八百七十七年	千八百七十八年
支那ハ	五百六十九万貳千三百三十九ドル	貳百貳十八万壹千ドル
總計	七十一万貳千八百五十ドル	五十七万八千六百七十九ドル
四月輸送ノ分	同	同
總計	六百四十九万九千八百八十九ドル	貳百八十九万九千六百七十九ドル
印度ハ	五百三十万ドル	三十万三千七百七十九ドル
支那ハ	九十三万壹千五百五十九ドル	六十七万七千九百三十九ドル
總計	六百二十三万壹千五百五十九ドル	九十八万壹千三百九十九ドル
五月輸送ノ分	同	同
印度ハ	千八百七十七年	千八百七十八年
支那ハ	六百四十七万二千二百九十ドル	壹百八十九万七千貳百ドル
總計	七百四十九万七千七百九十ドル	三百壹万四千六百九十ドル
千八百七十八年一月ヨリ五月ニ至ルマデ	千八百七十七年	千八百七十八年
ヨリ東洋諸国ハ輸送セシ銀ト昨七十七年同月間輸送ノ分ト	千八百七十七年	千八百七十八年
比較スレバ即チ次ノ如シ	千八百七十七年	千八百七十八年
香港ハ	千八百七十七年	千八百七十八年







荷蘭國ノ新カレシ小額ノ一ハ目今實ニ續々荷蘭ヲ去ルノ姿アルニ似タリ

是レ畢竟荷蘭國ニ於テハ銀貨ハ金貨ト均シク合法貨幣ナルニ金貨ハ何地ヘ送ルモ若干ノ打歩ヲ得ルモノナルガ故ニ續々同國ヲ去レバナリ

千八百七十八年五月刊行ノフランクフルトルゼイタンク新聞ヨリ左ノ文ヲ倫敦ノ諸新聞ニ載セリ云ク

荷蘭國銀行ニ於テ所有セル金塊ハ輓近頗デ爾減少ヲ示セ

千八百七十七年間輸出セシ金ハ荷蘭金貨幣ニテ六万六千ホ

ンドノ外國金貨幣並ニ金地金取交セテ壹百七十六万七千ホ

ドナリ目今モ尚ホ續々輸出ノ色アリ

本年四月中ニモ輸出セシ金額既ニ四拾壹万七千ホドニ及

ベリト

ヤキ十七

瑞西國ニ於テハ他ノ諸市場ヨリ金ヲ吸入セシヨリハ寧口輓

近ニ至リテ之レヲ他ノ諸市場ニ輸送セシモノ、如シ

本年六月八日刊行ノ倫敦「エコノミスト」新聞中組七納府ヨリノ

投昏欄内ニ左ノ文ヲ載セテ瑞西國ヨリ金ヲ輸送セシ所以ヲ解

説セリ云

千八百七十七年間瑞西銀行ヨリ紙幣ヲ發行セシ高ハ千三

百五十万フラント多キニ及ベリ然ルニ千八百七十一年

ニ於テハ其高僅カニ貳千四百五十万フラント止マレリ

是レ畢竟同國ニ於テハ兩本位ノ制ヲ用ニルガ為メニ金貨ノ

流通ヲ見ザルニ至リシト銀貨ノ下落トニ由テ紙幣ヲ増發セ

シニ帰スルナリ

夫レ瑞西人等如キハ既ニ數百年來金貨ヲ施用シ來リシガ



故ニ銀貨ヲハス殊ニポルサト佛國ノ西地ヨリ到來セシ  
五フ。ラシクノ大銀貨幣ヲ好マスシテ却テ紙幣ヲ信用セシ  
ヲ好ムノ色アリ尤モ最初紙幣發行ノ際ニ當リテハ一時人望  
ニ副ザルノ色アレトヤ却テ之ヲ好ムニ至レリト  
ルウマニア國ニ於テハ官札六百万ドルラハ發行アリテ法令  
ヲ布キ以テ之レヲ合法貨幣トナセシガ故ニ金銀兩貨幣ノ流通  
トモ相止ミタリ  
希臘國ニ於テハ諸種ノ紙幣ヲ發行セシガ為メニ金銀兩貨幣ト  
モ他國ニ逐出セラル、所トナリ  
希臘政府ニ於テハ官札ヲ發行セシテ或ル銀行ヨリ其紙幣ヲ  
借受ケタリ其借受ケノ約束ハ借受ケ全債却濟ミトナルマデハ  
其銀行ノ紙幣ヲ若干額丈ケ法律上ニ於テ合法貨幣トナスベキ  
トトセリ

セ十八

土耳其國ニ於テハ官札ノ發行實ニ巨額ニ及ヒタリ露國モ亦之  
レニ同シホシガリイ國ニ於テハ更ニ官札増發ノ議案ヲ起セリ  
ト蛭氏抗説紛々トシテ未タ可否相決セス  
抑モ改別ノ東部ヨリ流出セシ金銀斯ノ如ク以前ヨリ一層巨額  
ナルニ至リシハ昨年間政事上ノ事變アリント兵亂ノ起リレト  
ニ由テナリ  
亦西歐洲ノ金銀ヲ供給スルノ割合モ此事變ノ為メニ稍々増加  
セシハ固ヨリ論ヲ送タザルナリ  
金高ニ就テ之レヲ觀ルニ他日銀ノ產出巨額ノ増加ヲ望ムル  
ナク又此上歐洲中ニ廢銀ノ舉ヲ行フノ國アルニアラザレバ日  
耳曼ニテ其殘銀ヲ販賣スルトモ若クハ又補助銀貨ヲ増加スル  
カモ毫ニ角銀ノ所分相付トヤ否ヤ銀ノ金ニ至スル價格ハ必ス貴  
ズガレト考ラハナリ



将来右等ノ改訂ニ於テ金銀ヲ行フノ国アルニキトニ付テハ  
議論區々ナリ何レ万国貨幣會議ノ相諮整へ集會アルニ至ラバ  
其事明瞭ニ至ラン



